

感染症情報 8月22日～28日

府下小児科201医療機関(堺市19)から

①感染性胃腸炎	780例(堺市 40例)
②おたふくかぜ	360例(堺市 17例)
③溶連菌感染症	239例(堺市 13例)
④ヘルパンギーナ	148例(堺市 15例)
⑤RSウイルス感染症	112例(堺市 3例)

が報告された。

感染症報告数は前週より11.7%増の1,997件であった。上位5つの順位は前週と全く同じであった。おたふくかぜは前週比6%減であるが、依然として減っているとはいえない(堺市では22例→17例)。溶連菌感染症が府下で前週比30%増であった(堺市では15例→13例)。第5位のRSウイルス感染症は府下で15%減であった(堺市では2→3例)。ランク外であるが、マイコプラズマ肺炎の報告が堺市で9例あり。当院でもここ2週間で数名診ており、流行が心配される。

麻疹について:関西国際空港のチェックインカウンターなどの業務を担当している2人がまず麻疹と診断され、さらに同僚ら37人も同様の症状を訴えていると報道された。麻疹は潜伏期間が約10～12日であり、症状の出る前日から解熱後3日間を経過するまで他人に感染する可能性がある。どんなに広い場所でも、免疫がなければ同じ空間にいるだけでほぼ100%感染かつ発症する。定期接種の対象の子はMRワクチンの接種を至急していただきたい。

風疹の報告はなかった。